

令和元年度 第1回小田原市総合教育会議

日時：令和元年10月31日（木）

午前10時00分から11時45分まで

場所：市役所3階 全員協議会室

次 第

1 あいさつ（午前10時～午前10時05分）

2 議 題

(1) 小田原市教育大綱の振り返り（午前10時05分～午前11時15分）

（資料1-1、資料1-2、資料1-3）

ア 「地域ぐるみで取り組む教育環境づくり」にSDGs未来都市の選定やおだわら市民学校を生かすことについて

イ 多様性を認め、活かしていくことについて

ウ 子供の貧困や家庭の孤立に対して教育が取り組むべきことについて

エ コミュニティ・スクールについて

(2) 次回のテーマ設定に向けた意見交換（午前11時15分～午前11時40分）

（資料2）

3 その他（午前11時40分～午前11時45分）

小田原市総合教育会議名簿

(敬称略)

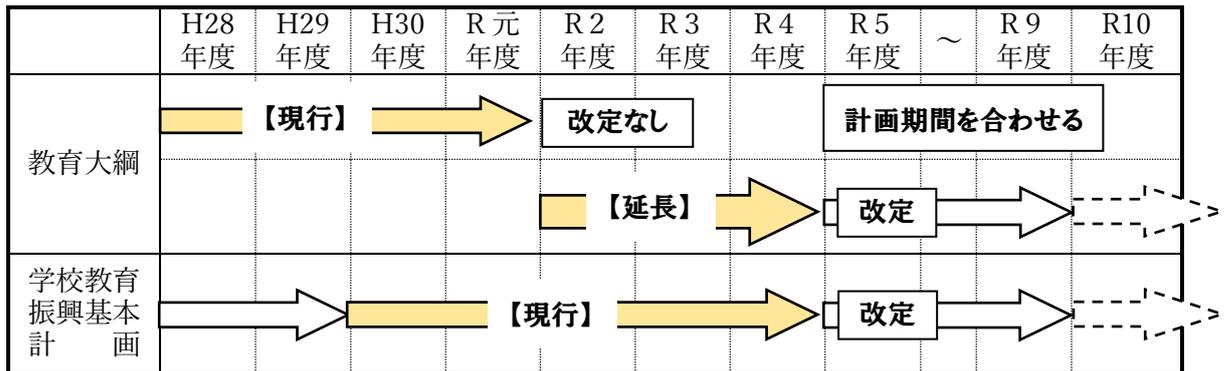
氏 名	所 属 等
加藤 憲一	小田原市長
栢沼 行雄	小田原市教育長
和田 重宏	(教育長職務代理者) 子どもと生活文化協会 (CLCA) 顧問
吉田 眞理	小田原短期大学学長
森本 浩司	医師
益田 麻衣子	NPO 法人こころみ理事長

議題 1 小田原市教育大綱の振り返り

【趣旨】

- ・ 期間：平成 28 年度から平成 31 年度（令和元年度）まで（4 年間）
- ・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3 で教育大綱は市長が定めるとされ、策定・変更するときは総合教育会議で協議するとされている。
- ・ 平成 30 年度の総合教育会議において、教育大綱については改定するのではなく、学校教育振興基本計画と期間を整合させるという方向性を確認し、令和元年度中に実施する総合教育会議において、教育大綱に関して振り返りを行うこととした。
- ・ 今回、教育委員への事前アンケートで、教育大綱に対して現時点で感じていることを回答していただいた。
- ・ このうち、策定時の社会状況と比べて特徴的であると考えられる社会状況を踏まえた意見や、教育大綱の策定の際には緒についたばかりの取組に対する意見について、総合教育会議の場で議論を深め、今後の取組に向けた重要な視点を抽出することで、教育大綱の振り返りとする。

教育大綱と学校教育振興基本画の改定スケジュール（案）



教育大綱に対して感じていること（事前アンケート）

■ 基本目標

	意見
一人ひとりの命を尊重し、豊かに伸ばすひとづくり	<ul style="list-style-type: none">・ 大人が子供の命を尊重するだけでなく、子供同士が互いの命を尊重しあう姿が意識化されるとよい・ 子どもの自己肯定感を高めること・ 虐待死が減らないなかで大人になり切れていない大人の実在への危惧
地域ぐるみで取り組む教育環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・ 小田原市が「SDGs未来都市」に選定されたことを生かす・ おだわら市民学校に多くの受講者があることは地域で取り組む土壌がある
多様性を認め、活かしていく教育のまちづくり	<ul style="list-style-type: none">・ 障がい者への配慮だけでなく、外国人、文化、宗教、嗜好など少数者への配慮をスピード感をもって対応することが必要

■ 重点方針

	意見
1. 学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強が好きになることが大切 ・自ら学び取り、発信する力が大切 ・自ら学び取ることが苦手な子供へのフォロー体制が大切
2. 豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自身が文化や芸術に触れ、本物に出会い、体験をすすんで行うことが前提 ・教師間のコミュニケーションに課題はないか ・児童生徒が本物に触れる機会の確保
3. 健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ・体育や食育に関心を持つ社会を実現することが必要 ・オリパラを契機とした取組や早い段階での生活習慣病予防の取組の重要性 ・体育大会の廃止などスポーツに対して逆行しているのではないか
4. 生活力	<ul style="list-style-type: none"> ・生活力の欠如の原因は「孤立」 ・地域への愛着やつながりが少なくなっている
5. 家庭教育	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の教育力が失われていることに気づいていない親へのアプローチ ・家庭環境の格差への配慮 ・家庭学習充実のための取組が見えにくい ・子供会の解散など家庭が地域から離れている
6. 就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族で育った人が親になり、ひとり親家庭も増加。時代の変化に伴う幼児期の対応が必要 ・就学支援が必要な子供に対する多種多様な支援体制 ・幼児教育全体（私立幼稚園を含む。）に対する公立幼稚園が果たすべき役割への期待
7. 学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が人間としての実力をつけることが大事 ・教職員の働き方改革の重要性 ・学校のあるべき姿を子供主体で考えることが大切 ・支援の必要な子供への対応が重要で、全ての子供に平等な教育を望む
8. コミュニティ・スクール	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が学校の運営に踏み込めていない ・学校と地域が対等な立場で知恵を出し合うことが重要 ・コミュニティ・スクールの議題と成果とは何か
9. 教育施設環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化対策と修繕が急務 ・雨漏りがする環境が子供にとって当たり前にならないように

平成 31 年度全国学力・学習状況調査結果における小田原市学校教育振興基本計画の成果指標数値

(1) 自ら考え表現する力

() 内は全国の値

指標 (全国学力・学習状況調査より)	平成 25 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	基準値(平成 29 年度)	平成 30 年度	平成 31 年度	目標値 (令和 4 年度)
友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができている児童生徒の割合	—	小学校 65.9%	小学校 67.5%	小学校 83.0%	小学校 73.5%	小学校 71.6%	90%以上
		(小学校 66.9%)	(小学校 68.3%)	(小学校 85.5%)	(小学校 77.7%)	(小学校 74.1%)	
授業で学んだことを、他の学習や生活に生かしている児童生徒の割合	—	中学校 65.0%	中学校 64.7%	中学校 88.9%	中学校 76.5%	中学校 68.7%	85%以上
		(中学校 62.9%)	(中学校 64.8%)	(中学校 88.4%)	(中学校 76.3%)	(中学校 72.8%)	
	—	—	—	小学校 83.8%	—	小学校 81.2%	
				(小学校 82.8%)		(小学校 82.8%)	
	—	—	—	中学校 70.5%	—	中学校 72.0%	
				(中学校 70.9%)		(中学校 74.9%)	

※質問項目「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができている児童生徒の割合」については、平成 29 年度（基準値）以外の年の数値は、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童生徒の割合」を準用している。

※質問項目「授業で学んだことを、他の学習や生活に生かしている児童生徒の割合」については、平成 31 年度は「授業で学んだことを、他の学習に生かしている」を準用している。

(2) 命を大切にすること

() 内は全国の値

指標 (全国学力・学習状況調査より)	平成 25 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	基準値(平成 29 年度)	平成 30 年度	平成 31 年度	目標値 (令和 4 年度)
自分には、よいところがあると感じている児童生徒の割合	小学校 74.7%	小学校 76.9%	小学校 75.3%	小学校 79.2%	小学校 82.0%	小学校 82.4%	85%以上
		(小学校 75.7%)	(小学校 76.4%)	(小学校 76.3%)	(小学校 77.9%)	(小学校 84.0%)	
	中学校 67.9%	中学校 68.2%	中学校 69.9%	中学校 71.6%	中学校 80.3%	中学校 71.3%	
		(中学校 66.4%)	(中学校 68.1%)	(中学校 69.3%)	(中学校 70.7%)	(中学校 78.8%)	
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと感じている児童生徒の割合	小学校 95.8%	小学校 96.3%	小学校 97.1%	小学校 96.0%	小学校 95.5%	小学校 96.7%	100%
		(小学校 95.9%)	(小学校 96.2%)	(小学校 96.6%)	(小学校 96.1%)	(小学校 96.8%)	
	中学校 92.0%	中学校 92.6%	中学校 93.5%	中学校 91.8%	中学校 95.7%	中学校 93.4%	
		(中学校 93.5%)	(中学校 93.7%)	(中学校 93.6%)	(中学校 92.8%)	(中学校 95.5%)	

(3) 健やかな心と体

() 内は全国の値

指標 (全国学力・学習状況調査より)	平成 25 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	基準値(平成 29 年度)	平成 30 年度	平成 31 年度	目標値 (令和 4 年度)
朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学校 96.5%	小学校 95.8%	小学校 94.4%	小学校 93.9%	小学校 91.8%	小学校 93.5%	95%以上
		(小学校 96.3%)	(小学校 95.6%)	(小学校 95.5%)	(小学校 95.4%)	(小学校 94.5%)	
	中学校 91.9%	中学校 90.3%	中学校 91.8%	中学校 91.0%	中学校 90.4%	中学校 92.6%	
		(中学校 93.8%)	(中学校 93.5%)	(中学校 93.3%)	(中学校 93.2%)	(中学校 91.9%)	

(4) ふるさとへの愛

() 内は全国値

指標 (全国学力・学習状況調査より)	平成 25 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	基準値(平成 29 年度)	平成 30 年度	平成 31 年度	目標値 (令和 4 年度)
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合	小学校 32.9% (小学校 38.6%)	小学校 44.8% (小学校 44.8%)	—	小学校 37.8% (小学校 42.3%)	小学校 41.5% (小学校 49.9%)	小学校 48.5% (小学校 54.5%)	50%以上
	中学校 25.6% (中学校 26.8%)	中学校 33.4% (中学校 32.9%)		中学校 29.8% (中学校 33.4%)	中学校 38.3% (中学校 38.7%)	中学校 36.8% (中学校 39.4%)	
今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小学校 53.3% (小学校 63.9%)	小学校 58.1% (小学校 66.9%)	小学校 57.2% (小学校 67.9%)	小学校 51.2% (小学校 62.6%)	小学校 49.4% (小学校 62.7%)	小学校 56.3% (小学校 68.0%)	60%以上
	中学校 36.7% (中学校 41.6%)	中学校 38.8% (中学校 44.8%)	中学校 38.2% (中学校 45.2%)	中学校 34.0% (中学校 42.1%)	中学校 41.1% (中学校 45.6%)	中学校 40.4% (中学校 50.6%)	

(5) 夢への挑戦

() 内は全国値

指標 (全国学力・学習状況調査より)	平成 25 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	基準値(平成 29 年度)	平成 30 年度	平成 31 年度	目標値 (令和 4 年度)
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある児童生徒の割合	小学校 94.6% (小学校 94.3%)	小学校 94.8% (小学校 94.5%)	小学校 94.0% (小学校 94.4%)	小学校 95.7% (小学校 94.8%)	—	小学校 94.7% (小学校 95.2%)	95%以上
	中学校 92.6% (中学校 93.7%)	中学校 92.3% (中学校 94.2%)	中学校 94.4% (中学校 94.3%)	中学校 95.2% (中学校 94.7%)		中学校 92.9% (中学校 93.9%)	
将来の夢や目的を持っている児童生徒の割合	小学校 86.5% (小学校 87.7%)	小学校 85.1% (小学校 86.5%)	小学校 84.4% (小学校 85.3%)	小学校 83.4% (小学校 85.9%)	小学校 82.2% (小学校 85.1%)	小学校 83.3% (小学校 83.8%)	90%以上
	中学校 73.2% (中学校 73.5%)	中学校 70.2% (中学校 71.7%)	中学校 71.5% (中学校 71.1%)	中学校 71.8% (中学校 70.5%)	中学校 72.5% (中学校 72.4%)	中学校 67.6% (小学校 70.5%)	

(6) おだわらっ子の約束

() 内は全国値

指標 (全国学力・学習状況調査より)	平成 25 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	基準値(平成 29 年度)	平成 30 年度	平成 31 年度	目標値 (令和 4 年度)
毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の割合	小学校 77.9% (小学校 78.9%)	小学校 79.3% (小学校 79.5%)	小学校 80.2% (小学校 80.1%)	小学校 78.3% (小学校 79.8%)	小学校 73.0% (小学校 77.0%)	小学校 79.1% (小学校 81.4%)	85%以上
	中学校 72.2% (中学校 74.3%)	中学校 71.0% (中学校 75.2%)	中学校 76.3% (中学校 75.2%)	中学校 72.7% (中学校 75.6%)	中学校 73.6% (中学校 74.2%)	中学校 76.6% (中学校 78.0%)	
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる児童生徒の割合	—	小学校 94.2% (小学校 92.9%)	小学校 93.7% (小学校 92.7%)	小学校 94.1% (小学校 94.3%)	—	—	95%以上
		中学校 94.2% (中学校 93.0%)	中学校 94.2% (中学校 93.0%)	中学校 95.4% (中学校 94.6%)			
学校のきまりを守っている児童生徒の割合	小学校 90.9% (小学校 90.6%)	小学校 90.9% (小学校 91.1%)	小学校 92.5% (小学校 91.5%)	小学校 92.8% (小学校 92.6%)	小学校 87.0% (小学校 89.5%)	小学校 90.4% (小学校 92.3%)	95%以上
	中学校 89.2% (中学校 92.5%)	中学校 91.6% (中学校 94.4%)	中学校 92.8% (中学校 94.7%)	中学校 92.2% (中学校 95.2%)	中学校 93.6% (中学校 95.1%)	中学校 95.0% (中学校 96.2%)	

※当該年度の「全国学力・学習状況調査」から質問項目が除外され、把握できなかった項目は傍線を付した。
 ※質問項目が除外されたが、趣旨が近い質問が設定されている場合、その質問項目を準用したものもある。

学校運営協議会の開催状況について

○平成27年度設置 1校

学校No.	学校名	主な議題や取組	成果	課題
2	新玉小学校	「本年度の教育活動について」 ・あいさつ運動への取組	委員から積極的な意見や情報が提供され、教育活動に取り入れるように努力してきている。 平成30年度は、授業参観だけでなく、「6年生との懇談」という場を設け、児童の生の声を聞いていただくことができた。	普段の授業だけでなく、集会活動等、児童の活発な活動の様子を参観していただけるような学校運営協議会の日程を考えていきたい。

○平成28年度設置 4校

学校No.	学校名	主な議題や取組	成果	課題
17	片浦小学校	「学校運営計画」 「学校評価」 「地域と地域外のふれあいについて」	「学校の農園活動の維持管理及び指導」「運動会・健民祭の同時開催」「PTAバザーへの地域の協力」等に関して話し合いが行われ、充実した運営をすることができた。	お子さん、お孫さんが小学校に在籍していない地域の方々に、更に小学校に関心をもってもらうための取組について考えていく必要がある。
18	曾我小学校	「学校経営方針」 ・学校環境の整備 ・防災整備や防犯活動について ・児童や卒業生のニーズを反映する学校運営と地域づくりについて ・140周年を迎えて	学校運営協議会が、学校運営への提言や承認のみならず、学校と地域をつないで動かす役割を担い、児童の思いや願いを地域に返して地域ぐるみの活動の輪を広げていくことができつつある。	円滑で協力的な関係を築くことができているので、現時点では課題はあまりないと考える。
22	豊川小学校	「学校経営計画の説明と承認」 「6年生代表児童との給食交流ミーティング」 「学校合言葉や豊川小学校スタンダードについて」	グランドデザインの説明資料を作成したことで、より丁寧に伝えられた。学校合言葉も浸透しつつあると感じる。 給食交流は、児童と委員が直接話をする良い機会となっている。	令和2年度に校舎の木質化に取り組むことが決まっている。学校が地域コミュニティの核となることを目指し、より連携を深めていきたい。
24	前羽小学校	「学校経営方針について」 「全国学力・学習状況調査の結果について」 「学校評価について」	「子どもたちの学力向上をめざして」というテーマで話し合った際は、児童の良さや課題を共通理解し、それぞれの立場からできることを話し合うことができた。 委員が学校応援団として大変協力的であるため、学校運営をスムーズに行うことができる。	学校から地域への関わりが薄くなると、学校から離れていってしまうかもしれない。

○平成 29 年度設置 4 校

学校No.	学校名	主な議題や取組	成果	課題
6	早川小学校	「学校ランドデザインについて」 「早川の子どもたちがどのように育ってほしいか」→学校運営協議会の目標設定 「学校評価について」	「あいさつ運動の強化」「世代間交流への参加」等を具体的な方策としている。特にあいさつ運動が充実しつつある。あいさつ運動を通して児童と地域の方々が顔見知りになり、地域行事や環境整備等でも自然とあいさつできるようになっている。	地域行事にもっと参加できるようになるとよい。
15	国府津小学校	「学校経営方針と教育活動について」 「地域・家庭との連携」 「学校評価」 ・児童との懇談	児童との懇談では、ごみの問題に対して地域としてどのように取り組みができるのか考える機会となった。セーフティマップの作成では、児童の安全のために、学校と地域が連携して取り組んでいくことを確認することができた。フラワーロード事業に取り組むことで、地域に愛着を持つ児童を育てることを目指している。	地域と学校を結ぶ取組を教育課程の中にもどのように位置づけていくのか。議題がマンネリ化していないか。
16	酒匂小学校	「学校経営計画」 「学校評価」 「地域でどのような子どもを育てていくか」	授業参観を通して出された意見をもとに、協議を行いながら、学校運営に反映させている。学校施設にも目を向けていただき、改善を図ることができた。令和元年度の校舎の木質化の取組に向けて、事前に意見をいただくことができた。	今の委員とよい関係づくりができているが、組織ためには新陳代謝も必要であることを考えると、委員の入れ替えについても考えていく必要があるのではないか。(協力していただいている立場なので、悩むところである)
19	東富水小学校	「進んで自分の思いや考えを伝えることができる子」 ・児童や家庭に配布する「家庭学習のてびき」について検討	学校や家庭、地域の児童の実態を理解し合うことで願いを共有することができた。地域や家庭から見た意見を取り入れ、「家庭学習のてびき」を発行することができた。	授業参観と組み合わせているため、協議の時間が短くなってしまふ。資料の事前配布や協議内容の精選をするなど、協議の持ち方に工夫が必要である。

○平成 30 年度設置 8校

学校No.	学校名	主な議題や取組	成果	課題
1	三の丸小学校	「教育計画について」 「学校評価について」 「子どもの現状等について」	学習参観後に協議しているため、児童の様子に基づいた具体的な意見、それぞれの立場から広い視野の意見をいただくことができています。 登下校の安全や学区の防災対策に関わる状況について意見をいただき、指導に反映させることができた。	情報交換はできているが、具体的な取組という点で、今後、議題を検討していく必要がある。
7	山王小学校	「学校経営方針」 「地域からの課題提起」	地域の伝統文化の継承を意識した取組を進め、委員の尽力により、「どんど焼き」に全校で参加した。婦人会の方に「小田原小唄」を教えていただき、盆踊りへの参加や運動会で踊ることにつなげていった。育成会行事「花いっぱい運動」に参加し、一人一鉢を育てている。	委員の選定についてどのように考えていったらよいか。
8	町田小学校	「学校経営方針について」 「学校評価について」	これまで、経営方針や学校評価をもとにした協議であったが、令和元年度はそれ以外に、あいさつをテーマにして協議していくことを決めた。具体的な取組については、今後の協議で話し合っていく。	あいさつをテーマに話し合うことは決めたが、具体的なことが今の段階では決まっていない。
9	久野小学校	「学校経営計画について」 「学校評価について」 ・講演会の開催 ・あいさつができる子を育てる →地域の中で顔が見える関係をつくる	学校運営協議会を有意義なものにしていくために、授業参観をとおして学校の現状を理解していただくようにした。地域の中で顔が見える関係をつくるために、防災訓練参加の呼びかけ、スクールボランティア活動の充実、あいさつ運動の充実等に取り組んでいる。	自分ごととして取り組むという意識を委員一人一人が持つことが大切であるが、学校としても何を話し合ってもらえばよいか悩むところである。
20	矢作小学校	「学校経営について」 「学校経営の反省について」	授業参観や学校行事への参加を通し、実際に児童の様子を見ていただく中で、学校運営についての意見をいただくことができた。令和元年度はインクルーシブ教育重点校のため、インクルーシブ教育についても説明をさせていただいた。	学校全体で児童を育てていこうという共通理解はできているが、具体的な取組については今後の検討が必要である。
21	報徳小学校	「学校経営計画」 「報徳小学校の実態と課題」 「教育活動の状況と評価」	児童の実態から「地域とのつながり」「思いやり教育の推進」を課題として取り上げ、自治会の呼びかけにより、児童が地域行事に参加することができた。人とのつながりやコミュニケーションの大切さを学ぶことができた。	年間3回のため、具体的な取組等については第2回目が重要な場となる。 委員の選定について、役職で依頼をしているが、役職の場合は途中で変わる可能性もある。

学校No.	学校名	主な議題や取組	成果	課題
23	富士見小学校	「学校運営計画について」 「学校評価について」 「子どもたちが安全に過ごすために」	学校評価から、学校の取組について前向きな意見をいただいた。委員が地域で、学校のプラス面について発信してくださっている。児童の安全について、平成30年度は見守り活動が中心であったが、令和元年度は具体的な取組について考えていく。	限られた回数の中で、各団体が具体的に何ができるのか。
25	下中小学校	「学校経営方針」 「学校評価」 「学校・地域の安全について（登下校の問題を中心に）」	授業参観により、教育活動について理解を図ることができた。登校班の見直しについて協議を行い、登校班が編制された経緯やそれぞれの委員の思いを知ることができ大変参考になった。現在の課題を多角的に見つめていくことができた。	学校評議員会との違いを明確に意識しながらの活動になったとはまだいえない。多様な意見を吸い上げるために委員の構成は課題である。（現在、お子さんが在籍中の保護者が1名のため）

○令和元年度設置 8校

足柄小、芦子小、大窪小、富水小、下府中小、桜井小、千代小、下曾我小の8校

議題2 次回のテーマ設定に向けた意見交換

平成30年度第2回総合教育会議より市長発言抜粋

(1) 親世代へのアプローチ

- ・学校でどれだけ環境教育をやっても親が平然とゴミを捨てていけば、子供も捨てるようになる。
- ・PTA研究集会に行っても、話しを聞いてほしい親世代の方が来ないというのは今に始まったことではないが、親の世代が蓄積した課題を次の世代に拡大再生産してしまっているのではないかという懸念がある。
- ・戦略的に何らかのアプローチできることはないのか。

(2) 情報化が進む社会の中で人間として健全に育っていくこと

- ・ICT、AIがすべて取って代わって、人間に何が残るのか、肉体的に健全に育ったり、体を使って生活をする中で、得るものは普遍的にあり、しかし社会の進化に適応していくような部分も必要で、そのバランスの中で非常に難しい舵取りを強いられてくると思っている。

(3) 学習指導要領について

- ・国の教育指針と絡むと思いますが、このタイトな中で、新しいこと、チャレンジを入れられず、余白がない中で子供たちは教育を受けているという状況が、なんとかならないのかといつも思う。

- ・市長発言の(1)(2)を受けて、次のとおりテーマ設定を考えている。

【次回テーマ】子育て家庭に対して地域、学校、行政がどのようなアプローチができるか～ 子どもの育ちに対するこれからの施策のあり方 ～

【設定理由】

- ・激しい社会変化の中で、地域の絆の希薄化、親の意識の低下により、家庭内でさえ親子間の繋がりが(スマホなどの情報機器により)断たれてしまっていたり、子供の解散など、子供の育つ環境が悪化している。
- ・未来を拓く子どもの育ちのために、地域や学校、行政が子育て家庭に対して何らかのアプローチが必要である。
- ・子どもの育ちにとって厳しい社会状況の中における施策のあり方を考えたい。

- ・関係所管と課題を共有するために、本テーマでフリートークをしていただき、論点を整理する。
- ・第2回総合教育会議では、整理した論点をもとに関連所管を含めた協議の場として設定する。